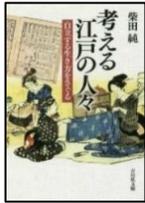




新着本案内7月号

愛知みずほ大学瑞穂高等学校
瀬木学園図書館

『考える江戸の人々』柴田純著 (210.5/シ)



中世までは、戦や災害などの苦難に対し、神仏に祈るのみで自ら克服しようとすることはありませんでした。大きな社会変動を経て「平和」が実現した江戸時代に入ると、神仏の加護ではなく人の力で問題を解決すべきだと考えるようになります。大名の責任意識から庶民の寺子屋教育まで、考え、工夫して行動することが積極的に肯定されていく過程が描かれています。

『牛が消えた村』豊田直巳写真・文 (369.36/ト/1)

『負けてられねえ』と今日も畑に』豊田直巳写真・文 (369.36/ト/2)

『孫たちは帰らない』けれど』豊田直巳写真・文 (369.36/ト/3)



東日本大震災・原発災害から7年近くが経ち、その風化が進みつつある中で、原発災害をどう記憶し、心に残し、震災後をどう生きるかを考えるきっかけを示します。

『ゴーストタウン』エレナ・ウラジーミロヴナ・フィラトワ著 (369.36/フ)



1986年の事故から四半世紀後のチェルノブイリの世界。放射性物質による汚染の末に無人となり、時間が消えた大地をモーターサイクリストにして写真家の著者が走破します。原子力災害の現実を静かに表現した詩的文明批評です。

『かわいいねこの絵巻物』瓜几拉絵 (382.22/グ)



魅力的で生き生きとした猫たちによって描きだされた、色鮮やかな中国唐代の絵巻物には、当時の娯楽や怪談、美女、風習などが賑やかに表されています。猫好きの方へのイラスト集としてはもちろん、ちょっとした雑学や歴史を知ることもできる新たな猫イラストエッセイを届けます。

『歩行するクジラ』J.G.M.シューウィセン著 (457.89/シ)



約4~5千万年前、クジラの祖先が陸上の生活を捨て、なぜ水中での生活を選んだのかを、インド、パキスタン、日本、アラスカなどの世界各地でのフィールドワークを通して古生物学と分子生物学の世界から紐解きます。

『名画の中の料理』メアリー・アン・カウズ著 (596.23/カ)



美術×料理！巨匠が愛したレシピを再現！！巨匠たちは何を食べて、何に魅せられ、何を描いてきたのか——。巨匠たちの作品や日記、手紙から再現された数々のレシピ。ヘミングウェイがカキ料理を愛でた『移動祝祭日』の一節や、クリムトの『鶏のいる庭の小道』など、食を軸にした、現代芸術の新しい見方が載っています。

『氷上秘話』いとうやまね著 (784.65/イ)



羽生結弦、宇野昌磨、本田真凜…。一流フィギュアスケーターが演技する競技プログラムを「音楽、アート、デザイン、歴史、伝承」サイドから切り取り、実際の振付、演技のコンセプトに照らし合わせて語ります。また50点を超える高須力氏の写真が紙面全体を彩ります。

『マンガでわかる日本の神様』東條英利監修 (172/ト)

『マンガでわかる「西洋絵画」のモチーフ』池上英洋監修 (723/イ)

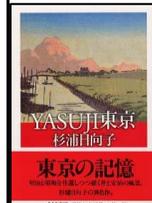
『マンガでわかる「オペラ」の見かた』小畑恒夫監修 (766.1/オ)

『マンガでわかる歌舞伎』マンガでわかる歌舞伎編集部編 (774/マ)



日本の神様はどんな感じ？西洋画のモチーフには意味がある？オペラってどうやって見るのが正解？歌舞伎って難しそう。興味はあるけど難しそう、そんなイメージのあるものをマンガにして、わかりやすく伝えます。独特の切り口で掘り下げて紹介する。マンガだからできる、わかりやすく、ポイントをついた解説をしています。

『Yasuji東京』杉浦日向子著 (726.1/ス)



井上安治、風景画家。元治元年、浅草生れ。十四歳の時、小林清親に入門。明治二十二年没。二十五歳。安治は東京に何をみたのでしょうか。明治の東京と昭和の東京を自在に歩きつつ、夭折の画家井上安治の見た風景を追い、清親との不思議な師弟関係を描く静謐(せいひつ)な世界。他に単行本未収録作品を併録しています。

『知っているようで知らない日本語のルール』佐々木瑞枝著 (810.4/サ)



「あたりまえ」の日本語に隠された日本人が知らないルール！「それ」って「あれ」と「これ」とどう違う？丁寧な表現の「お」と「ご」はどう使い分けている？「帰る」は「帰った」になるのに「変える」は「変えた」にならないのはどうして？日本語教育の第一人者が教える、日本語のヒミツです。

『現古辞典』古橋信孝著 (813.6/フ)



いまのことばと古語のつながりを知るための「読む辞典」。上代から近世までの多様な出典から豊富な用例を収録しています。数詞、鳴き声、自然現象、病気の和語、擬音語、擬態語から、指示詞、代名詞、敬語動詞まで。現代語の文章に古語が入ると、新鮮なニュアンスが生まれます。日本語を楽しみ、使いこなしたい人のための一冊です。

『おまじない』西加奈子著 (913.6/ニ)



大人になって、大丈夫なふりをしていても、ちゃんと自分の人生のページをめくったら、傷ついてきたことはたくさんある——。それでも、誰かの何気ないひとことで、世界は救われます。悩んだり傷ついたり、生きづらさを抱えながらも生きていくすべての人の背中をそっと押す、キラメキの8編です。

『未来』湊かなえ著 (913.6/ミ)



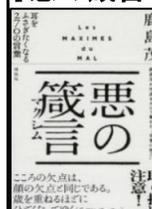
「こんにちは、章子。わたしは20年後のあなたです」ある日、10才の章子に突然届いた一通の手紙。送り主は未来の自分、30才の章子だという。章子はその手紙を、本物の未来の自分からの手紙であると信じることにしました……。『告白』から10年、湊ワールドの集大成！待望の書き下ろし長編ミステリーです。

『乗客ナンバー23の消失』セバスチャン・フィツェック著 (943.7/フ)



乗客の失踪が相次ぐ大西洋横断客船「海の سلطان」号。消えた妻子の行方を追うべく乗船した敏腕捜査官の前に現れる謎。錯綜する謎を解かないかぎり、ニューヨーク到着まで逃げ場はない。からみあう嘘と裏切りと策謀——真相はめくらましの向こうにある！無数の謎をちりばめて、ドイツ・ミステリーのベストセラー作家が幕進(まくしん)させる閉鎖空間サスペンスです。

『悪の箴言(マクシム)』鹿島茂著 (957/カ)



ラ・ロシュフーコーが言った「こころの欠点は、顔の欠点と同じである。歳を重ねるごとにひどくなってゆく。」など、たった一行で致命傷になることもあります。鹿島茂が生涯をかけて集めた“言葉の短刀”。耳をふさぎたくなる270の言葉を集めました。どの言葉があなたに一番刺さりましたか？

☆文庫本☆

『ことり』小川洋子著 (913.6/オ)

『君が死ぬ未来がくるなら、何度でも』茅野実柚著 (913.6/カ)

『閻魔堂沙羅の推理奇譚: 負け犬たちの密室』木元哉多著 (913.6/キ/2)

『たとえば君が虚像の世界』くらゆいあゆ著 (913.6/ク)

『後宮の鳥』白川紺子著 (913.6/シ)

『魔女の魔法雑貨店黒猫屋』せひらあやみ著 (913.6/セ)

『つつじ和菓子本舗のつれづれ』梨沙著 (913.6/リ)

『消え去ったアルベルチーヌ』プルースト作 (953.7/プ)

